

令和7年度

授業シラバス・
年間指導計画

地歴・公民
(3年)

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理・歴史科	日本史探究（日本史探究）	3	教科書『詳説 日本史』（日探705）山川出版社

学習のねらい	我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。 学習の到達目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
--------	---

授業形態・アドバイス等	各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。
-------------	--

評価の観	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	- 概念や理論について理解する力 - 情報を適切かつ効果的にまとめる力	- 多面的・多角的に考察し、判断する力 - 構想したことを議論したり表現したりする力	- 課題解決力 - 粘り強く取り組む力 - 自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 課題 観察 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第10章 幕藩体制の動揺	- 幕府・諸藩の窮乏や百姓一揆などの史料から情報を読み取り、三大改革や田沼の諸政策の意義について理解している。 - 政治経済と文化の関係などに着目して19世紀初期の経済や文化について理解している。	- 幕藩体制の動揺と文化の展開の関連について、諸資料から読み取れる情報をもとに考察し、表現している。 - 国際情勢の変化と影響などに着目して、幕府政治の動揺と諸藩の動向について考察し、表現している。	- 幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や幕府・諸藩の政策の変化について、主体的に追究しようとしている。 - 近世後期に形成された文化と近代以降の文化との関係性についてつながりを見出そうとしている。
	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立	- 政治・経済の変化と思想への影響などに着目して幕藩体制の崩壊と新政権の成立と中央集権化について理解している。 - 諸資料をもとに自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定・議会開設にいたる過程を理解している。	- 日本が直面していた課題を踏まえ、幕末維新期の日本の課題を考察し、表現している。 - 諸制度の改革が地域社会にもたらした変化やヨーロッパ諸国との関係などについて考察し、表現している。	- 幕末の政治動乱の過程を考察し、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。 - 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
	第13章 近代国家の展開 第14章 近代の社会と生活	- 日清戦争から第一次世界大戦にいたる過程について諸資料をもとに理解している。 - 産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会においておきた社会問題について理解している。	- 大戦中の日本の動向を踏まえ、アジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたかを考察し、表現している。 - 都市の発達や生活の変化など地域社会の変容について多角的に考察し、表現している。	- 対外的な戦争が日本の近代化においてどのような意味をもったかについて考察し、追究しようとしている。 - 明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することにより、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。
後期	第15章 恐慌と第二次世界大戦	- 国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、恐慌と国際関係について理解している。 - 戦争の推移と国民生活の影響などに着目して、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。	- 満州事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などについて多角的・多面的に考察し、表現している。 - 戦争が拡大した理由について、日本における全体主義的な国家体制の進展について考察し根拠を示して表現している。	- 満州事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。 - 日中戦争から太平洋戦争にいたる過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。
	第16章 占領下の日本 第17章 高度経済成長の時代 第18章 激動する政界と日本	- 占領政策の転換による日本の政治や経済の変化について史料から読み取り、サンフランシスコ平和条約調印による日本の主権回復の意義について理解している。 - 冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目し、日本の経済成長や高度成長期の国民生活の変化について理解している。	- 戦後の諸改革が連合国の対日占領政策に基づくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ、実施されたことについて考察し、表現している。 - 日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	55年体制の歴史的意義や保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。 - 冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。
備考				

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理・歴史科	日本史研究（日本史研究）	1	教科書『詳説 日本史』（日探705）山川出版社 『新詳日本史』（浜島書店）

学習のねらい	我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。 学習の到達目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
--------	--

授業形態・アドバイス等	日本史探究の授業と連携しながら、各クラス（講座）で行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。定期的に課題を提出してもらいます。
-------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	- 概念や理論について理解する力 - 情報を適切かつ効果的にまとめる力	- 多面的・多角的に考察し、判断する力 - 構想したことを議論したり表現する力	- 課題解決力 - 粘り強く取り組む力 - 自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 課題 観察 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 日本文化のあけぼの	旧石器文化・縄文文化・弥生文化の成立と変容を大陸との影響に着目して理解している。	考古資料をもとにして、旧石器文化から弥生時代までの生活について考察し、表現している。	原始の各文化について、その特色を明らかにしようとしている。
	第2章 古墳とヤマト政権	国家の形成、古墳文化、推古天皇らの政権運営や飛鳥文化について、中国大陸・朝鮮半島との関連などに着目して理解している。	中国の歴史書や国内外の史料に基づいて日本と中国大陸や朝鮮半島との関係から、当時の日本の様子について考察し、表現している。	中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、古墳時代や推古朝の政治や文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。
	第3章 律令国家の形成	律令体制の成立とその展開について、隋・唐など中国王朝との関係や文化の影響などに着目し、理解している。	律令体制に基づく土地制度や盛唐文化の影響を受けた天平文化について考察し、根拠を示して表現している。	平城京の造営と奈良時代の政治の動向に注目し、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。
	第4章 貴族政治の展開	律令体制の変容と摂関政治と国風文化についてその特徴を理解している。	国際関係の変化や浄土信仰などに着目し、平安時代の政治や文化について考察し、表現している。	平安時代の地方の動向が政治や社会に与えた影響を明らかにしようとしている。
後期	第5章 院政と武士の躍進	貴族社会や土地制度の変容などをもとに、諸資料を調べ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。	武士の台頭の景気や土地制度の仕組みを考察し、古代から中世への時代の転換について、根拠を示して表現している。	中世社会の特色について時代を遡る間を表現し、追究しようとしている。
		諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。	武士の土地支配の持つ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。	古代との比較などを通して、中世の特色を追究しようとしている。

後期	第6章 武家政権の成立 第7章 武家政権の成長	・諸資料から鎌倉幕府と室町幕府の特徴やその時代の文化について理解している。 ・庶民の活動や庶民の文化について文化の地方伝播や戦国大名の登場などを関連付けて理解している。	・武家と公家の二元支配と両者に関わる文化の特徴について考察し、根拠を示して表現している。 ・戦国大名による富国強兵策に着目して、領国統治の特色について諸資料から考察し、表現している。	・宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。 ・室町時代に成立した村の自治的運営が現代社会における自治とどのように異なるかを主体的に追究しようとしている。
	第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開	・幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。 ・都市の発達と文化の担い手に注目して、17世紀の文化と特徴などについて、史料を読み取り、理解している。	・織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて、多角的・多面的に考察し、表現している。 ・戦乱のない時代が創出された意義を踏まえ人々の意識がどのように変化したのかを考察し、表現している。	・幕藩体制が確立する過程における様々な画期について考察し、主体的に追究しようとしている。 ・近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの様相について、その推移や展開を明らかにしようとしている。
	第10章 幕藩体制の動揺	・幕府・諸藩の窮乏や百姓一揆などの史料から情報を読み取り、三大改革や田沼の諸政策の意義について理解している。 ・政治経済と文化の関係などに着目して19世紀初期の経済や文化について理解している。	・幕藩体制の動揺と文化の展開の関連について、諸資料から読み取れる情報をもとに考察し、表現している。 ・国際情勢の変化と影響などに着目して、幕府政治の動揺と諸藩の動向について考察し、表現している。	・幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や幕府・諸藩の政策の変化について、主体的に追究しようとしている。 ・近世後期に形成された文化と近代以降の文化との関係性についてつながりを見出そうとしている。
	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立	・政治・経済の変化と思想への影響などに着目して幕藩体制の崩壊と新政権の成立と中央集権化について理解している。 ・諸資料をもとに自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定・国会開設にいたる過程を理解している。	・日本が直面していた課題を踏まえ、幕末維新期の日本の課題を考察し、表現している。 ・諸制度の改革が地域社会にもたらした変化やヨーロッパ諸国との関係などについて考察し、表現している。	・幕末の政治動乱の過程を考察し、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。 ・自由民権運動の展開過程を考察したうえで、立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
	第13章 近代国家の展開 第14章 近代の社会と生活	・日清戦争から第一次世界大戦にいたる過程について諸資料をもとに理解している。 ・産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会においておきた社会問題について理解している。	・大戦中の日本の動向を踏まえ、アジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたかを考察し、表現している。 ・都市の発達や生活の変化など地域社会の変容について多角的に考察し、表現している。	・対外的な戦争が日本の近代化においてどのような意味をもったかについて考察し、追究しようとしている。 ・明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することにより、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。
	第15章 恐慌と第二次世界大戦	・国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、恐慌と国際関係について理解している。 ・戦争の推移と国民生活の影響などに着目して、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。	・満州事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などについて多角的・多面的に考察し、表現している。 ・戦争が拡大した理由について、日本における全体主義的な国家体制の進展について考察し根拠を示して表現している。	・満州事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。 ・日中戦争から太平洋戦争にいたる過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。
	第16章 占領下の日本 第17章 高度経済成長の時代 第18章 激動する政界と日本	・占領政策の転換による日本の政治や経済の変化について史料から読み取り、サンフランシスコ平和条約調印による日本の主権回復の意義について理解している。 ・冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目し、日本の経済成長や高度成長期の国民生活の変化について理解している。	・戦後の諸改革が連合国の対日占領政策に基づくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ、実施されたことについて考察し、表現している。 ・日本が石油危機を乗り越えて経済大國となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	・55年体制の歴史的意義や保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。 ・冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。
備考				

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理・歴史科	日本史考察（日本史考察）	2	教科書『詳説 日本史』（日探705）山川出版社 『新詳日本史』（浜島書店）

学習のねらい	我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。 学習の到達目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
--------	--

授業形態・アドバイス等	日本史探究の授業と連携しながら、各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて日本の歴史事象について多面的に考察を行います。
-------------	---

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論したり表現する力	・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 課題 観察 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権	・旧石器文化・縄文文化・弥生文化の成立と変容を大陸との影響に着目して理解している。 ・国家の形成、古墳文化、推古天皇らの政権運営や飛鳥文化について、中国大陸・朝鮮半島との関連などに着目して理解している。	・考古資料をもとにして、旧石器文化から弥生時代までの生活について考察し、表現している。 ・中国の歴史書や国内外の史料に基づいて日本と中国大陸や朝鮮半島との関係から、当時の日本の様子について考察し、表現している。	・原始の各文化について、その特色を明らかにしようとしている。 ・中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、古墳時代や推古朝の政治や文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。
	第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開	・律令体制の成立とその展開について、隋・唐など中国王朝との関係や文化の影響などに着目し、理解している。 ・律令体制の変容と摂関政治と国風文化についてその特徴を理解している。	・律令体制に基づく土地制度や盛唐文化の影響を受けた天平文化について考察し、根拠を示して表現している。 ・国際関係の変化や浄土信仰などに着目し、平安時代の政治や文化について考察し、表現している。	・平城京の造営と奈良時代の政治の動向に注目し、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。 ・平安時代の地方の動向が政治や社会に与えた影響を明らかにしようとしている。
	第5章 院政と武士の躍進	・貴族社会や土地制度の変容などをもとに、諸資料を調べ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 ・諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。	・武士の台頭の景気や土地制度の仕組みを考察し、古代から中世への時代の転換について、根拠を示して表現している。 ・武士の土地支配の持つ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。	・中世社会の特色について時代を通観する間を表現し、追究しようとしている。 ・古代との比較などを通して、中世の特色を追究しようとしている。

後期	第6章 武家政権の成立 第7章 武家政権の成長	・諸資料から鎌倉幕府と室町幕府の特徴やその時代の文化について理解している。 ・庶民の活動や庶民の文化について文化の地方伝播や戦国大名の登場などを関連付けて理解している。	・武家と公家の二元支配と両者に関わる文化の特徴について考察し、根拠を示して表現している。 ・戦国大名による富国強兵策に着目して、領国統治の特色について諸資料から考察し、表現している。	・宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。 ・室町時代に成立した村の自治的運営が現代社会における自治とどのように異なるかを主体的に追究しようとしている。
	第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開	・幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。 ・都市の発達と文化の担い手に注目して、17世紀の文化と特徴などについて、史料を読み取り、理解している。	・幕藩体制の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて、多角的・多面的に考察し、表現している。 ・戦乱のない時代が創出された意義を踏まえ人々の意識がどのように変化したのかを考察し、表現している。	・幕藩体制が確立する過程における様々な高潮について考察し、主体的に追究しようとしている。 ・近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの様相について、その推移や展開を明らかにしようとしている。
	第10章 幕藩体制の動揺	・幕府・諸藩の腐敗や百姓一揆などの史料から情報を読み取り、三大改革や田沼の諸政策の意義について理解している。 ・政治経済と文化の関係などに着目して19世紀初期の経済や文化について理解している。	・幕藩体制の動揺と文化の展開の関連について、諸資料から読み取れる情報をもとに考察し、表現している。 ・国際情勢の変化と影響などに着目して、幕府政治の動揺と諸藩の動向について考察し、表現している。	・幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や幕府・諸藩の政策の変化について、主体的に追究しようとしている。 ・近世後期に形成された文化と近代以降の文化との関係性についてつながりを見出そうとしている。
	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立	・政治・経済の変化と思想への影響などに着目して幕藩体制の崩壊と新政権の成立と中央集権化について理解している。 ・諸資料をもとに自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定・議会開設にいたる過程を理解している。	・日本が直面していた課題を踏まえ、幕末維新期の日本の課題を考察し、表現している。 ・藩制度の改革が地域社会にもたらした変化やヨーロッパ諸国との関係などについて考察し、表現している。	・幕末の政治動乱の過程を考察し、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。 ・自由民権運動の展開過程を考察したうえで、立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
	第13章 近代国家の展開 第14章 近代の社会と生活	・日清戦争から第一次世界大戦にいたる過程について諸資料をもとに理解している。 ・産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会においておきた社会問題について理解している。	・大戦中の日本の動向を踏まえ、アジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたかを考察し、表現している。 ・都市の発達や生活の変化など地域社会の変容について多角的に考察し、表現している。	・対外的な戦争が日本の近代化においてどのような意味をもったかについて考察し、追究しようとしている。 ・明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することにより、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。
	第15章 恐慌と第二次世界大戦	・国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、恐慌と国際関係について理解している。 ・戦争の推移と国民生活の影響などに着目して、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。	・満州事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などについて多角的・多面的に考察し、表現している。 ・戦争が拡大した理由について、日本における全体主義的な国家体制の進展について考察し根拠を示して表現している。	・満州事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。 ・日中戦争から太平洋戦争にいたる過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。
	第16章 占領下の日本 第17章 高度経済成長の時代 第18章 激動する政界と日本	・占領政策の転換による日本の政治や経済の変化について史料から読み取り、サンフランシスコ平和条約調印による日本の主権回復の意義について理解している。 ・冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目し、日本の経済成長や高度成長期の国民生活の変化について理解している。	・戦後の諸改革が連合国の対日占領政策に基づくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ、実施されたことについて考察し、表現している。 ・日本が石油危機を乗り越えて経済大國となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	・55年体制の歴史的意義や保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。 ・冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。
備考				

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理・歴史科	世界史探究（世界史探究β）	3	教科書『詳説 世界史』（世探701）山川出版社

学習のねらい	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
--------	---

授業形態・アドバイス等	各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。
-------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	- 概念や理論について理解する力 - 情報を効果的にまとめる力	- 多面的・多角的に考察、判断する力 - 構想したことを議論・表現する力	- 課題解決力 - 粘り強く取り組む力 - 自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査、課題、ペアワーク等	定期考査、レポート、発表等	課題取組状況、ノートやレポートの記述、授業中の発言、生徒自己評価と相互評価等

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む
	第12章 産業革命と環大西洋革命 第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	・産業革命と環大西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開や国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成や国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革を構造的に理解している。	・大西洋沿岸地域の動向や世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容や、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地味的特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「国民国家と近代社会の形成」や「世界市場の形成とアジア諸国の変容」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

第14章 アジア諸地域の動揺 第15章 帝国主義とアジアの民族運動	・第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。	・列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	「アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
第16章 第一次世界大戦と世界の変容 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムや、世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺などを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容、国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。	・第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向と世界恐慌と国際協調体制の動揺に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格や、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「第一次世界大戦の展開と諸地域の変容」や・「国際協調体制の動揺と第二次世界大戦」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界	・集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、先進国の経済成長と南北問題、原子力の利用などを基に、紛争解決の取り組みと課題、格差の是正の取り組みと課題、知識基盤社会の展開と課題を理解している。	・国際機構の形成と紛争、国際競争の展開と経済格差、科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「冷戦の世界化と国際制度」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・「冷戦の変容・終結と経済のグローバル化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
備考			

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名(校内名称)	単位数	教材
地理・歴史科	世界史研究(世界史研究)	1	教科書『詳説 世界史』(世探701) 山川出版社

学習のねらい	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
--------	---

授業形態・アドバイス等	「世界史探究Ⅱ」と相互に関連させながら、各クラスの授業選択者で行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、教科書を読んで、授業に参加してください。
-------------	---

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒像(資質・能力)との関連	- 概念や理論について理解する力 - 情報を効果的にまとめる力	- 多面的・多角的に考察、判断する力 - 構想したことを議論・表現する力	- 課題解決力 - 粘り強く取り組む力 - 自らの学習を調整する力
主な評価方法	この授業単体での考查は実施せず「世界史探究Ⅱ」と併せて評価する。 課題 観察 ペアワーク等	この授業単体での考查は実施せず「世界史探究Ⅱ」と併せて評価する。 レポート 発表等	課題取組状況 ノートやレポートの記述、授業中の発言 生徒自己評価と相互評価等

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第12章 産業革命と環大西洋革命 第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	産業革命と環大西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開や国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成や国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革を構造的に理解している。	大西洋沿岸諸地域の動向や世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の事象や、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の事象の地味的特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	「国民国家と近代社会の形成」や「世界市場の形成とアジア諸国の変容」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

第14章 アジア諸地域の動向 第15章 帝国主義とアジアの民族運動	・第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。	・列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	「アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
第16章 第一次世界大戦と世界の変容 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムや、世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動向などを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容、国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。	・第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向と世界恐慌と国際協調体制の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格や、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「第一次世界大戦の展開と諸地域の変容」や「国際協調体制の動向と第二次世界大戦」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界	・集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、先進国の経済成長と南北問題、原子力の利用などを基に、紛争解決の取り組みと課題、格差の是正の取り組みと課題、知識基盤社会の展開と課題を理解している。	・国際機構の形成と紛争、国際競争の展開と経済格差、科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「冷戦の世界化と国際制度」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・「冷戦の変容・終結と経済のグローバル化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
備考	この授業単体での考查は実施せず「世界史探究β」と併せて評価する。		

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名(校内名称)	単位数	教材
地理・歴史科	世界史考察(世界史考察)	2	教科書『詳説 世界史』(世探 701) 山川出版社

学習のねらい	社会的・歴史的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
--------	--

授業形態・アドバイス等	世界史探究Ⅱと相互に関連させながら、各クラスの世界史選択者で行う一斉授業です。定期考査は実施しません。小テストや演習問題、課題やレポートの取り組み状況から総合的に評価をします。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。2年次の既習範囲も含めた、世界史探究Ⅱの学習内容の補足やまとめを中心に行います。
-------------	---

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒像(資質・能力)との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察、判断する力 ・構想したことを議論・表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	小テスト 課題 等	レポート 発表 課題 等	課題取組状況 生徒自己評価と相互評価 等

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1 諸地域世界の歴史的性質の形成(古代) 2 諸地域の交流・再編(中世・近世)	古代から現代までの各時代の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	古代から現代までの各時代の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	古代から現代までの各時代の特質や、諸地域間の交流再編、結合・変容、現代の課題といった学習内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
後期	3 諸地域の結合・変容(近代) 4 地球世界の課題(現代)			
備考				

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理歴史	地理探究	3	新詳 地理探究（帝国書院） 新詳 高等地図（帝国書院） 新編 地理資料 2024（とうほう） データブックオブザワールド 2024（二宮書店） 地理用語集（山川出版）

学習のねらい	地理総合の学習によって身につけた資質・能力をもとに、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
--------	---

授業形態 アドバイス など	授業形態は、各クラスでの一斉授業となります。適宜、グループ学習やペアワークを取り入れていきます。積極的に参加することで思考力や表現力を養いましょう。定期的に課題も提出してもらいます。年に5回定期考査を実施する予定です。
---------------------	---

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間の相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりすることができる。さらに、それらをもとに議論したりすることができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを持つことができる。
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力。	社会的事象について、地理的な見方や考え方を働かせ、多面的・多角的に考察したり自らの考えを表現したりする力。	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会において、世界の諸地域の課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む力。
主な評価方法	定期考査 観察 ペアワーク	定期考査 レポート 発表	ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第2章 資源と産業 6節 第3次産業	経済が発展し、物やサービスへの需要が高まったため、主力の産業となった第3次産業の現状はどのようなになっているかについて理解している。	経済が発展し、物やサービスへの需要が高まったため、主力の産業となった第3次産業の現状はどのようなになっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	第3次産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	第3章 交通・通信と観光、貿易 1 交通・通信 2 観光 3 貿易と経済圏	交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	交通・通信、観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	第4章 人口、村落・都市 1 人口 2 人口問題 3 村落と都市 4 都市・居住問題	人口、都市・村落などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	人口、村落・都市について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	第5章 生活文化、民族と宗教 1 衣食住 2 民族・宗教と民族問題 3 国家の領域と領土問題	生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	生活文化、民族・宗教について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。

後期	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 1 地域区分	いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解している。	現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。	現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそどこみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	第2章 現代世界の諸地域 1 中国	工業化や経済発展が著しく、世界経済に大きな影響を与えている中国について、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	工業化や経済発展が著しく、世界経済に大きな影響を与えている中国について、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	中国について、よりよい社会の実現を視野にそどこみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	2 韓国	日本と地理的な距離が近く、急速な経済成長を遂げている韓国について、自然環境や歴史と生活文化、産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	日本と地理的な距離が近く、急速な経済成長を遂げている韓国について、自然環境や歴史と生活文化、産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	韓国について、よりよい社会の実現を視野にそどこみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	3 ASEAN 諸国	古くから農業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいるASEAN 諸国について、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	古くから農業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいるASEAN 諸国について、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	ASEAN 諸国について、よりよい社会の実現を視野にそどこみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	4 インド	近年急速に経済が成長しているインドについて、産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて理解している。	近年急速に経済が成長しているインドについて、産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。	インドについて、よりよい社会の実現を視野にそどこみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	5 西アジアと中央アジア	自然環境や生活文化で共通点が多くみられるが、異なる歴史的経緯や地域ごとの特殊性もある西アジアと中央アジアについて、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を理解している。	自然環境や生活文化で共通点が多くみられるが、異なる歴史的経緯や地域ごとの特殊性もある西アジアと中央アジアについて、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を多面的・多角的に考察し、表現している。	西アジアと中央アジアについて、よりよい社会の実現を視野にそどこみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	6 北アフリカとサハラ以南のアフリカ	アフリカとしてのまとまりをもっている一方で、大きく異なる点も多々ある北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を理解している。	アフリカとしてのまとまりをもっている一方で、大きく異なる点も多々ある北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を、多面的・多角的に考察し、表現している。	北アフリカとサハラ以南アフリカについて、よりよい社会の実現を視野にそどこみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	7 EU 諸国	二度の世界大戦を機に EU を中心とした政治・経済の統合を進めているヨーロッパについて、民族や産業など地域	二度の世界大戦を機に EU を中心とした政治・経済の統合を進めているヨーロッパについて、民族や産業など地域	EU 諸国について、よりよい社会の実現を視野にそどこみられる課題を主体的に追究しようとしている。

	を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	
8 ロシア	かつて社会主義国だったが、1990年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めているロシアについて、農業や工業を国家体制の変化に関連づけて理解している。	かつて社会主義国だったが、1990年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めているロシアについて、農業や工業を国家体制の変化に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。	ロシアについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
9 アメリカ合衆国	移民国家としての多様性を持ち、世界有数の農業国であり、先端技術産業でも世界をリードしているアメリカ合衆国について、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	移民国家としての多様性を持ち、世界有数の農業国であり、先端技術産業でも世界をリードしているアメリカ合衆国について、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	アメリカ合衆国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
10 ラテンアメリカ	かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっているラテンアメリカについて、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて理解している。	かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっているラテンアメリカについて、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。	ラテンアメリカについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
11 オーストラリアとニュージーランド	南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられるオーストラリアとニュージーランドについて、二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を理解している。	南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられるオーストラリアとニュージーランドについて、二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を、多面的・多角的に考察し、表現している。	オーストラリアとニュージーランドについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究 1 将来の国土の在り方 2 持続可能な日本の国土像の探究	現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。	現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現している。	持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとしている。
備考			

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科3年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
公民	政治・経済	2	『詳述政治・経済』（実教出版） 『つかむ公共・政経』（浜島書店）

学習のねらい	・社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。（知識・技能） ・国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。（思考・判断・表現） ・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。（主体的に学習に取り組む態度）
--------	---

授業形態 アドバイス など	各クラス（講座）で行う一斉授業です。授業中は、しっかりと学習内容の理解に努めてください。授業後は、しっかりと復習して次の授業に臨むことが大切です。
---------------------	---

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにしているかどうか。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かっているかどうか。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めているかどうか。
育てたい生徒像 （資質・能力） との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察・判断する力 ・構想したことを議論・表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 ノート	定期考査 ノート 発表	課題取り組み状況 ノート提出 振り返りシート

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1部 現代日本における政治・経済の諸問題 第1編 現代日本の政治 第1章 民主政治の基本原則 第2章 日本国憲法の基本的性格 第3章 日本の政治機構 第4章 現代日本の政治 第2編 現代日本の経済 第1章 経済社会の変容 第2章 現代経済のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上	民主政治の基本原則、日本国憲法の基本原則や内容、日本の政治機構などを理解している。 近代経済の変遷、現代経済のしくみ、現代社会における福祉の向上について理解している。	民主政治の基本原則、日本国憲法の基本原則や内容、日本の政治機構などを理解したうえで、政治の本質について考察し、表現している。 近代経済の変遷、現代経済のしくみ、現代社会における福祉の向上について理解したうえで、経済の本質について考察し、表現している。	現代の政治や経済の諸問題という学習内容に対して、見通しをもって意欲的に学習に取り組もうとしている。
後期	第2部 グローバル化する国際社会の諸課題 第1編 現代の国際政治 第2編 現代の国際経済 第3編 国際社会の諸課題の探究	現代の国際政治、現代の国際経済、国際社会の諸問題について多面的・多角的に理解している。	現代の国際政治、現代の国際経済、国際社会の諸問題について多面的・多角的に理解したうえで、諸問題について考察し、表現している。	国際社会の諸問題という学習内容に対して、見通しをもって意欲的に学習に取り組もうとしている。
備考				

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 理数科3年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理歴史	地理探究	4	新詳 地理探究（帝国書院） 新詳 高等地図（帝国書院） 新編 地理資料 2024（とうほう） データブックオブザワールド 2024（二宮書店） 地理用語集（山川出版）

学習のねらい	地理総合の学習によって身につけた資質・能力をもとに、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
--------	---

授業形態 アドバイス など	授業形態は、各クラスでの一斉授業となります。適宜、グループ学習やペアワークを取り入れていきます。積極的に参加することで思考力や表現力を養いましょう。定期的に課題も提出してもらいます。年に5回定期考査を実施する予定です。
---------------------	---

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりすることができる。さらに、それらをもとに議論したりすることができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを持つことができる。
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力。	社会的事象について、地理的な見方や考え方を働かせ、多面的・多角的に考察したり自らの考えを表現したりする力。	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会において、世界の諸地域の課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む力。
主な評価方法	定期考査 観察 ペアワーク	定期考査 レポート 発表	ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1節 農林水産業 1 農業の発達と分布 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 日本の農業の現状と課題 5 世界と日本の林業 6 世界と日本の水産業	世界の農林水産業の現状について、自然環境とどのように関わっているかについて理解している。	農林水産業の分布についての背景を考察することができる。	持続可能な農林水産業のあり方について、課題を主体的に追究しようとしている。
	2節 食料問題 1 世界の食料問題 2 日本の食料問題	食料の分配の世界的な偏りや、飽食や飢餓の原因について理解している。	世界の食料問題の原因や背景について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。	飢餓の解決にむけて必要な取り組みを調べたり、発表したりすることができる。
	3節 エネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用	世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて理解している。	エネルギーや電力についての課題を考察することができる。	持続可能な社会に向けて、今後のエネルギーや電力のあり方について探究しようとしている。
	4節 資源・エネルギー問題 1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題について、社会的背景をもとに理解している。	資源・エネルギー問題について持続可能な社会の構築のために必要なことを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	エネルギー・鉱産資源について、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	5節 工業 1 工業の発達と種類 2 工業の立地 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 工業の知識産業化とスタートアップ企業 6 日本の工業	工業はどのように発展し、現在はどういった分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて理解している。	グローバルな視点に立ち、今後の工業の発展にはどのような取り組みが必要かを考察し、表現することができる。	持続可能な社会の構築にむけて、今後の工業のあり方について主体的に追究しようとしている。
	第2章 資源と産業 6節 第3次産業	経済が発展し、物やサービスへの需要が高まったため、主力の産業となった第3次産業の現状はどのようになっているかについて理解している。	経済が発展し、物やサービスへの需要が高まったため、主力の産業となった第3次産業の現状はどのようになっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	第3次産業について、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	第3章 交通・通信と観光、貿易 1 交通・通信 2 観光 3 貿易と経済圏	交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	交通・通信、観光について、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	第4章 人口、村落・都市 1 人口 2 人口問題 3 村落と都市 4 都市・居住問題	人口、都市・村落などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	人口、村落・都市について、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。

	第5章 生活文化、民族と宗教 1 衣食住 2 民族・宗教と民族問題 3 国家の領域と領土問題	生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	生活文化、民族・宗教について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
--	--	--	--	--

後期	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 1 地域区分	いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解している。	現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。	現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	第2章 現代世界の諸地域 1 中国	工業化や経済発展が著しく、世界経済に大きな影響を与えている中国について、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	工業化や経済発展が著しく、世界経済に大きな影響を与えている中国について、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	中国について、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	2 韓国	日本と地理的な距離が近く、急速な経済成長を遂げている韓国について、自然環境や歴史と生活文化、産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	日本と地理的な距離が近く、急速な経済成長を遂げている韓国について、自然環境や歴史と生活文化、産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	韓国について、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	3 ASEAN 諸国	古くから農業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいるASEAN 諸国について、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	古くから農業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいるASEAN 諸国について、文化・民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	ASEAN 諸国について、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	4 インド	近年急速に経済が成長しているインドについて、産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて理解している。	近年急速に経済が成長しているインドについて、産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差をはじめとする課題を、経済成長に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。	インドについて、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	5 西アジアと中央アジア	自然環境や生活文化で共通点が多くみられるが、異なる歴史的経緯や地域ごとの特殊性もある西アジアと中央アジアについて、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を理解している。	自然環境や生活文化で共通点が多くみられるが、異なる歴史的経緯や地域ごとの特殊性もある西アジアと中央アジアについて、二つの地域を比較し、一般性や地域の特殊性を多面的・多角的に考察し、表現している。	西アジアと中央アジアについて、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	6 北アフリカとサハラ以南のアフリカ	アフリカとしてのまとまりをもっている一方で、大きく異なる点も多々ある北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を理解している。	アフリカとしてのまとまりをもっている一方で、大きく異なる点も多々ある北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を、多面的・多角的に考察し、表現している。	北アフリカとサハラ以南アフリカについて、よりよい社会の実現を視野にそこのみられる課題を主体的に追究しようとしている。

7 EU 諸国	二度の世界大戦を機に EU を中心とした政治・経済の統合を進めているヨーロッパについて、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	二度の世界大戦を機に EU を中心とした政治・経済の統合を進めているヨーロッパについて、民族や産業など地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	EU 諸国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
8 ロシア	かつて社会主義国だったが、1990 年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めているロシアについて、農業や工業を国家体制の変化に関連づけて理解している。	かつて社会主義国だったが、1990 年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めているロシアについて、農業や工業を国家体制の変化に関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。	ロシアについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
9 アメリカ合衆国	移民国家としての多様性を持ち、世界有数の農業国であり、先端技術産業でも世界をリードしているアメリカ合衆国について、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。	移民国家としての多様性を持ち、世界有数の農業国であり、先端技術産業でも世界をリードしているアメリカ合衆国について、地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して、多面的・多角的に考察し、表現している。	アメリカ合衆国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
10 ラテンアメリカ	かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっているラテンアメリカについて、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて理解している。	かつてヨーロッパ諸国の植民地であった歴史的背景があり、それが人々の生活や現在の産業にも深く関わっているラテンアメリカについて、文化や農業・工業をヨーロッパの影響と関連づけて、多面的・多角的に考察し、表現している。	ラテンアメリカについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
11 オーストラリアとニュージーランド	南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられるオーストラリアとニュージーランドについて、二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を理解している。	南半球にある地理的位置や移民の国という共通点があるが、自然環境や産業で違いもみられるオーストラリアとニュージーランドについて、二つの国を比較し、類似する一般性や地域の特殊性を、多面的・多角的に考察し、表現している。	オーストラリアとニュージーランドについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究 1 将来の国土の在り方 2 持続可能な日本の国土像の探究	現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。	現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現している。	持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとしている。
備考			